

第三期岩崎式日本語用語(通観言の矢印は指向性を表す)

第三期岩崎式日本語用語(通観言の矢印は指向性を表す)				既存の宗教観との対応						
		燈助詞	通観言							
		男我燈	心描	抽化	抽出					
		←現在のヒトの身体の範囲→								
真格・阿頼耶格(真格連続体)	空格以前	無し	ウ	イ・オ↓	↓ア・エ	大自然に没入	東洋的「真我」	仏教の「無我」「空」(般若心経、中観派)、唯識思想の「識」「識」の实在を一旦認めて「空」に引き戻す)、ウパニシャドの「梵我一如」、陽明学の「心即理」、日本のアニズム・自然信仰	自然・・・(全てが対等)「真格」 人類(真我)・動植物・物体 第三期岩崎式日本語における「格」概念は、上記のような人間観・自然観に立つ中で、自我の芽生えを自覚させられるある出来事のみ(道具・手段なら「具格」、希求なら「希格」など)を抽出する機能であると言える。従って、一般の言語学で言う「格」とは概念が異なる。	
	空格	無し				←空我				大自然に没入
	空識間格	無し				空識間我				同上
	識格	無し				識我				同上
	識具間格	ン				識具間我				同上
	具格	ンデ				具我				同上
	具及間格	ーデ				具及間我				同上
	及格	デ				及我				同上
	及希間格	デノ				及希間我				同上
	希格	ンノ				希我				同上
	希能間格	ーノ				希能間我				同上
	能格	ノ				能我				同上
	能意間格	ノガ				能意間我				同上
	意格	ンガ				意我				同上
意活間格	ーガ	意活間我	同上							
活格	ガ	活我	同上							
活主間格	ガ	活主間我	同上							
主格	ガ		常観言	主我(いわゆる自我)	西洋的「自我」	人類の特権的地位、キリスト教的自然観、自然に対する支配と征服、「他人」「他我」「個人」「個性」などの概念成立	超越真理・・・(人類・自我の特権性を保証) ↓ 人類・・・自我(個)「主格」→→他我(個)「対格」 ↓ 自然・・・動植物・物体(名詞の性別化による自然支配＝文法性)「対格」			
岩崎純一 Copyright (C) http://www.iwasaki-j.sakura.ne.jp/										